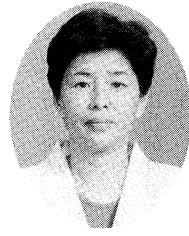


## 心は

### 愛で育つもの

大竹 洋子



「先生、うちの子は勉強ではパッと  
しなかったけど、遊びでは誰よりも目  
立ったでしょう。元気で、学校が楽し  
くてしかたがないのだから、これでい  
いんだって、主人ともよく話をしてい  
たんですよ。でもあの子のおかげで毎  
日の夕食どきが、それは楽しいんです  
おじいさんもおばあさんも一緒になっ  
て、学校のことから、あれこれと家族  
六人で話はずむんです。中学生に  
なっても、家族の団らんだけは、大事  
にしていきたいと思います。」  
二年間担任したA男の母親が、卒業  
前の懇談会で話したことである。  
明るくて、行動的で、思いやりのあ  
るA男を育てた家庭の温かさがしのば  
れて、心が和んだ。

話は変わるが、教育相談の仕事に携  
わって二年になる。その間、数多くの

問題に接した。相談内容は、種々様々  
であったが、数的には、登校拒否に關  
するものが最も多かった。

相談を受ける度に、「なんとかして  
やりたい」という思いに駆られるが、  
実力が伴わない自分に、いら立ちを覺  
え読けた二年間でもあった。そんな中  
で、いつも感じていたことに「子ども  
たちの内面的な力の弱さ」がある。が  
んばる・粘る・悩む・耐える・考えつ  
く・・・というような自分自身とのた  
たかいが弱過ぎるのである。そのため  
に「自分」が確立できず、自分の確た  
る意志をもたないまま、周囲に流され  
たり、孤立してしまっているのである。

そんな子どもたちの親の養育態度は  
過保護・支配的・無関心などであり、  
共通して、物質第一主義的な考えが強  
く、心を育てる面の努力が極端に弱い。  
まさに、現代社会が抱える問題その  
ものが、子どもの問題行動の背景に、  
はっきりと見られることに驚く。

物質的豊かさに反して、人と人との  
結びつき・親子の絆など、心の豊かさ  
は、逆に貧弱になってきている現象の  
中で、最も大きな影響を受けて、傷つ  
いているのは、適応力の乏しい子ども  
たちであることを、大人はもっと認識  
すべきである。

繊細で傷つきやすい心の持ち主であ  
るが故に、自分を理解してくれようと  
しない周囲へのやむにやまれぬ子ども  
なりの抵抗、自己主張をしている、そ  
れが問題行動なのではないだろうか。

心を病む子どもたちは、切ないまで  
に、家族や教師、友だちからの、心に  
響く愛情を待っている。だから、親や  
教師がまず、子どもの心の「小さな  
声・小さなサイン」を正しく受け止め  
ることから努力し、信頼される大人と  
して、病んでいる心に響く働きかけを  
していつてほしい。

心は愛で育つもの。追い込んだり、  
重圧をかけて育てるものではないはず。  
大人の身勝手から子どもを解放して  
本来の伸びやかさにもどしてやること  
これが、周囲にいる我々大人が、今す  
ぐにやらなければならないことである  
ことを、声を大にして訴えたい。

(いわき市立湯本第一小学校教諭)

## 個性を生かす

大楽 宣和



一年生が、母親に手をひかれ、新し  
いランドセルを重そうに背負い、期待  
に小さな胸を膨らませて入学してきた。  
この子どもたちの健やかな成長を願わ  
ずにはいられない。と同時に、教職に  
携わるものとして、その指導を考えた  
とき、職責の重さを痛感する。とい  
うのも、学校教育は、その在り方によ  
って、子どもらの一生を左右しかねない  
ほどの役割を担っていると言っても過  
言ではないからである。

学校教育のねらいはたくさんある。  
新学習指導要領において、特に重視さ  
れていることの一つに、「基礎的・基  
本的内容を、子ども一人一人に確実に  
身につけさせる」ことがある。しかし  
私自身の実践を振り返ってみれば、や  
やもすると教師主導型指導になりがち  
で、子どもを「できる」「できない子」  
というように、子どもの能力を固定的  
にとらえ、その子の持っている能力や  
個性を十分に生かしてきかたは言い難  
い。今にして思えば、「個性を生かす」  
ということとは、子どもを固定観念を  
持つてとらえることではなく、子ども  
の持つている、興味や関心、学力、能  
力、特性などを多面的にとらえ、それ  
らを大きく伸ばしてやることであつた。  
たとえ、学習がよく理解できない子ど  
もでも、優しさがわかるとか、どんな  
小さなことにも感動するとかいった、  
豊かな感性を持つている子どもが、  
一人の人間の中に、「二人の自分」が  
存在しているのである。我々教師の役

今年もまた、裏山にカタクリ草の花  
が咲き乱れ、春到来を感じさせるすば  
らしい季節を迎えた。